

# 北九州市文化財保護審議会 会議録

45枚  
20年7月16日開催

## 1 会議名

平成20年度第1回北九州市文化財保護審議会

## 2 開催日時

平成20年7月16日(水) 14:00~17:00

## 3 開催場所

小倉北区役所庁舎 特別会議室

## 4 出席者

(委員)

山中英彦会長、豊川裕子副会長、田辺むつみ委員、佐伯弘次委員、門司宣里委員、宮本雅明委員、石川昭子委員、藤井厚志委員  
計8名

(事務局)

平山孝敏文化財課長 他7名

## 5 議題・議事の概要

【協議事項】

- 文化財指定候補物件について
  - ・ 平松神輿
- 折尾駅舎について

【内容】

- 平松神輿について
  - ・ 平松神輿の歴史や修理内容、小倉祇園とのかかわり、市内の古い神輿などについて、専門の先生方に調査していただき、次回の審議会で報告することとなった。
- 折尾駅舎について
  - ・ 折尾駅舎は、外装はサイディングになっているが、骨組みや部材、天井などオリジナルが残っているようであり、文化財としての価値については、調査や判断が必要である。
  - ・ 保全していくにもいろいろな方法が考えられているが、保全した後の維持管理等も考えた場合、地元としてどう考えているかという意見も参考にしたい。  
等の意見が出された。

【報告事項】

- ・ 旧古川鮎業若松ビルの国登録文化財の登録について
- ・ 「歴史まちづくり法」について
- ・ 国指定天然記念物「千仏鍾乳洞」の落書き被害について

【現地視察】

- ・ 国重要文化財「旧松本家住宅」保存修理事業

豊川副会長	地元の請願として出てきているということなのですか？
文化財係長	そうですね。
豊川副会長	わかりました。
山中会長	では、委員のみなさまに調査していただいた結果につきましては、次回の審議会でご報告をいただくということで、今日は収めておきたいと思います。それでは、つづきまして折尾駅舎について説明をお願いします。
【議題2】	・折尾駅舎について (事務局から説明。)
宮本委員	提言の内容は「保全」や「部材の一部活用する」などの言葉があって、非常にあいまいです。どういうつもりなんですか。シンボルとなる部材だけあるいは主な部材を使って将来「まがいもの」を造るというようなことを考えているのでしょうか。
文化財係長	それに関して資料の9ページをごらんください。復元・解体の工法ということで、検討段階では、「全面保全」と改築保全など複数の保全方法について検討されております。全面保全というのが今の部材をそのまま使って、別の場所につくる。「再築保全」というのは基本的には構造部材は今に合うように作りかえ、デザインが残っている部分を新しい建物に入れるという方法です。「曳き家」は現実的には難しいですが、今の建物を同じ敷地内の別の場所に移すという方法。「パーツ保全」は必要な部材だけとって別な場所に展示し、最終的には記録だけとるという方法。こういったいくつかの方法で検討されておりますが、提案のなかでは、どれをとるということは明確にしていまません。まだ、最終的には決まっていないとわたしどもは理解しています。
宮本委員	そうすると、文化財的な建物の価値の判断は保留しているようですが、価値付けができれば、場合によっては全面保存ということもありうるということですか。
文化財係長	その道はとざされてはいないと思います。
文化財課長	レジュメに「歴史的建造物を活用したまちを目指します」というのがあり、そこがポイントだと思います。

	<p>現在の折尾駅舎は地域の人が活用できる地域の人が活用できる一体施設として保存する。次にシンボルとなる部材や歴史を伝える部材を利用してやるということで、これをみると部材を活用するという方向のようです。</p>
宮本委員	<p>文化財的な価値判断は保留しているから、その後の押しがあれば、部材だけでなくもう少し本体の保存まで踏み込める余地があるのかなと思ったのですが。</p>
文化財課長	<p>その辺はこの文書だけですので、これをどう判断するかということになると思います。</p>
宮本委員	<p>最後のほうには文化財的価値判断は保留にしていますね。だからそれをこちらにボールは投げられていると考えていいのでしょうか。</p> <p>まちづくりの提言委員会やJR九州の価値判断には踏み込めないということですよ。そういうことであれば、文化財的な価値の判断を見極めるといふか、そういったことをきちんとやってその上で協議して、価値によっては「全面保存」、あまり価値がなければ土地の問題を考慮する、そういったことを協議するべきだと思います。</p> <p>外装はサイディングなっていますが、骨組み、小屋組み、部材、装飾品部材も天井も文書によるとオリジナルが残っているようですし、かなり全体が残っていて、必要に応じてところどころいじってきたと、いうことで、いまのところ文化財としての調査や判断をすべきではないかと思います。</p>
文化財係長	<p>折尾駅舎に関しては設計時の図面はありません。設計者もはっきりわかりません。1階の上に2階を増築したという形で、はっきりとした価値条件がない状態で、最終的にはっきりと分かるのは解体するときに確認しないと分からないのですが、文化財指定となると、解体前に指定しないと解体したあとに文化財指定というのは、どうでしょうか、難しいのでは。</p>
宮本委員	<p>保存を前提に解体して、部材を指定して組み立てるといふ例はありますが、そうすると解体のときにいねいに解体しないと。</p>
山中会長	<p>出されている資料をみますと、工法というのが一つにしばられてなく、いろいろなパターンがあるので迷いますね。文化財指定にするならば、はっきりとその価値評価をきちっとして、あげなければいけないと思います。</p>

文化財課長	<p>この中では文化財の指定までは最終的に踏み込んでない形になっています。</p> <p>その中の部材について、その中でも価値のある部材を活用しようという方向かと思いますが。</p>
宮本委員	<p>先ほどもいいましたが、文化財的な価値判断ができないから、こちらにボールが投げられているということなんですよね。JRもこの委員会も文化財的な価値判断ができなかったということですよ。ボールはこちらにきているので、価値があるかどうかは調べないと分からないですが、少なくとも文化財の観点から調べてみると。</p>
山中会長	<p>そのような、文化財指定を検討すべきと提案しますとなっているのでしょうか。確かにこちらにふられているところはありますから。</p> <p>その他、なにかご意見ありませんでしょうか。</p> <p>お聞きしますと、欠席の委員の方からも意見が出ていますか。</p>
文化財係長	<p>意見いただきましたのは、清水委員です。</p> <p>清水委員は「文化財として残すべきではなかろうか」という意見です。</p> <p>宮本先生にお聞きしたいのですが、文化財としての価値を判断するとき、どういった基準や目安で今後やっていくべきでしょうか。もちろんJRの調査も入りますが、それである程度価値判断されると考えてよろしいでしょうか。</p>
宮本委員	<p>JR九州関係で指定になっているのは、門司港駅が重文ですよ。あとめぼしいものは折尾駅と直方駅。直方駅はもうあやしいですよ。そう考えると、ちゃんとある程度残っているのは価値がないとは言えない。価値があるといわざるを得ないのではないのでしょうか。</p> <p>年代は大正ですが、門司港駅も大正ですよ。だから一番力があつたときの建物ということで、なおかつ明治のときのものが増築している。さらにおもしろいのは、景観的な配慮をして軸を少しずらしているということもありますし、都市計画との関係で非常に面白い工夫をしているということもあり、単体だけではなく、周りとの関係でもさらに価値をアップできるかもしれません。</p>
文化財係長	<p>ただそうした場合、問題になるのが、文化財として価値があった場合に、所有者はまだJRです。JRの駅舎を解体して引き取り手を、となれば、「差し</p>

行政の本音  
↓

上げます。」というスタンスです。そうすると、だれがこの建物を引き取って、移築して、管理するか、とういことがまだはっきりしていない状態で、仮に「文化財として価値があるから残しなさい」となった場合、だれに指示を出すかはっきり読めないということが問題として一つあります。  
将来的に「地元が管理します」と言った場合に、「地元は経済的に管理できません。だからいりません。」という判断も選択肢の一つとして出てくるのかなど。そうした場合に文化財としての立場として、しょうがないですねとあきらめるのか、それとも方策を提言として出すのか、その辺はどうしたらよいでしょうか。

宮本委員

価値判断する前にそれを考えても…。  
価値があると決まった段階で次の手を考えるというステップを踏まなければ、最初から行き先がないから調査をしませんというのは…。  
これは、古い駅舎をのこして新しい駅舎を建てるというのは結構あります。軽井沢の駅は新幹線の横に残しているし、ほかにも国立や田園調布など、まちのシンボルとして残すというのは、全国的なトレンドで、なくしてしまったところは、あとで後悔しているんですよ。折尾駅もまちのシンボルですよ。これがなくなるといことは、市民にとってとてもさびしいことだと思います。それは残すということになれば、当然市民のバックアップです。それが必要ですね。

山中会長

いろいろ難しい問題もあるようですが、ここで審議するとき、地元からの方向性がもう一つ強くあったほうが分かりやすいかと思えますね。「これにしたい」というような方向ですね。合計で形だけで言うと6つ。文化財としての価値は、宮本先生がおっしゃったように、おそらく委員の多くの方がそれぞれ価値は認めていると思いますが、どの方法でいくかに関してはいろいろ。地元の方々の気持ちも、以前は確か「保存」という言葉を使っていたが「保全」に変わってきている。なにか背景があるのかなという感じもします。いずれにしろ、北九州の駅舎の中では、非常に重要な文化的価値があると思えますので、それにふさわしい扱いが今後されていければと思います。  
おそらく行政のほうも審議会の意見を聞いておきたいという気持ちで出されたと思えますので、宮本先生や清水先生などご専門の先生から意見が出ておりますので、それらをふまえて、できる限りよい方法で。調査するとか、価値観をきちっと示す必要があるならば、次で間に合いますか。

文化財係長

今聞いているのは平成21年度に解体で、まだ1年近

会長見解  
↓

	<p>くあります。ただ、最終的に事業主体は市の建築関係ですから、提言をうけてどういう方向で行くかは私もまだ聞いておりません。</p> <p>その中で文化財としてどうなのかということも当然聞かれる。それについて行政判断する段階で、審議会の先生方に…指定となれば諮問ということになるのですが、まだそこまで整ってないので、今の段階では、先生方の意見という形で集約し、参考にさせていただいて、話があったときに持っていくというスタンスだと思います。</p>	
<p>山中会長</p>	<p>分かりました。</p> <p>時間も経過しておりますので、今日出た意見を踏まえて動いてもらいたいと思います。</p> <p>その辺で今日は終わりたいと思います。</p>	
<p>&lt;報告事項&gt; (3件)</p>	<p>それでは、本日3件の報告がありますので、一括して事務局のほうからお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧古河鋳業若松ビルの国登録文化財の登録について</li> <li>・「歴史まちづくり法」について</li> <li>・国指定天然記念物「千仏鍾乳洞」の落書き被害について</li> </ul>	
<p>山中会長</p>	<p>何かご質問がありましたら。</p> <p>それでは、以上で、協議事項・報告は終わりました。そのほかに全体を通して、ご意見はありませんか。</p> <p>それでは、次回の日程や本日の現地視察について事務局から説明をお願いします。</p> <p>(事務局説明)</p> <p><u>今後の日程について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は平松神輿の調査結果報告。</li> <li>・時期は10月後半予定</li> <li>・本年度は委員改選の年に当たるので、引き続き皆様の協力をいただきたい。</li> <li>・諸事情があり辞退する先生が出た場合は、後任の方の推薦などの相談にのっていただきたい。</li> </ul> <p><u>現地視察について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松本家住宅の保存修理の様子</li> <li>・今年2月から日本館の2階を修理している様子を見ていただく予定。詳しくは現地責任者からしてもらう。</li> </ul>	

## 平成20年度第1回北九州市文化財保護審議会

と き：平成20年7月16日(水) 14:00~17:00

と ころ：小倉北区役所庁舎 7階 特別会議室

### 1 協議

○ 文化財指定候補物件について

・平松神輿

資料1

○ 折尾駅舎について

資料2

### 2 報告事項

(1) 旧古河鋳業若松ビルの国登録文化財の登録について

資料3

(2) 「歴史まちづくり法」について

資料4

(3) 国指定天然記念物「千仏鍾乳洞」の落書き被害について

資料5

※その他

### 3 その他

次回開催日程について

○ 現地視察

国重要文化財「旧松本家住宅」保存修理事業

問合せ先：おりお未来 21 協議会 山本  
 (電話：601-4945)  
 行政窓口：折尾総合整備事務所 正野、竹田  
 (電話：602-3108)

報道機関各位

平成 20 年 6 月 25 日

## 折尾まちづくりビジョンの提言について

私たち「おりお未来 21 協議会」は、現在進められている折尾地区総合整備事業を機に、住みやすく、魅力的で楽しいまち“折尾”をつくりあげていくために、これまで折尾のまちづくりに取り組んできた様々な団体がひとつになったものです。

この「折尾まちづくりビジョン」は、新たに生まれ変わるまちを、自分たちの手でより良いものにしていくために、折尾の住民が望んでいる将来の姿やまちづくりの基本的考え方を描いたものです。

折尾の住民として、今後、北九州市と協働で「人が主役、やさしさいっぱい  
 のまち」を目指すために、下記のことを提言します。

### ①商業を中心とした賑わいの創造に関する提言

住民には快適・安全・便利な「生活空間」と、訪れる人には好奇心を満たす「都心空間」が調和する「交流・生活都心」を目指します！

### ②公共施設のデザインや景観形成に関する提言

歩行者空間を大切に「歩いて楽しいまち」の実現を目指します！

### ③歴史的建造物の保全と活用に関する提言

歴史的建造物を活用したまちを目指します！

### ④すべての人にやさしく、安全・安心なまちづくりに関する提言

「人が主役、やさしさいっぱい  
 のまち」

年齢・性別・国籍・障がいにかかわらず、だれでも安心して、  
 自分の意思やペースで出かけられるまちを目指します！

今後とも「おりお未来 21 協議会」は、地域住民の窓口として、折尾の住民の意見を十分反映できるよう、市と協働で継続的に折尾地区のまちづくりを行っていきます。



# 1. 提言

折尾の住民として、今後、北九州市と協働で「人が主役、やさしさいっぱいのまち」を目指すために、下記のことを提言します。

## ① 商業を中心とした賑わいの創造に関する提言

住民には快適・安全・便利な「生活空間」と、訪れる人には好奇心を満たす「都心空間」が調和する『交流・生活都心』を目指します。

- 高架下、市場街区、駅南北の新たな賑わいの核（駅北側：折尾警察署・土木事務所跡地、駅南側：駅前広場～2号公園～堀川沿い）を結ぶ、商業を主とした賑わいの軸（歩行者の回遊動線）を形成する。
- 高架下空間は、周辺街区との連携や賑わいの連続性に配慮して利用形態を検討する。
- 市場周辺のエリアについては、折尾のまちづくりにとって重要なエリアであり、高架橋～堀川（駅北側）の一連の公共空間と市場の立地する街区が一体となったにぎわいの空間を目指す。
- 堀川（駅南側）の歴史的な経緯も踏まえ、水辺を活用した良好な環境の空間形成を目指す。

## ② 公共施設のデザインや景観形成に関する提言

歩行者空間を大切にしたい「歩いて楽しいまち」の実現を目指します。

- 駅前広場、高架橋、街路、公園などの個別の施設のデザインがバラバラにならないように、一貫した方針でデザインする。
- 高架橋の構造体と付属物（雨水の配管、架線柱、その他）と高架下空間が一体となって統一感のあるデザインとする。
- 南北駅前広場とも、改札口を中心とした歩行者動線のわかりやすさ（視認性）や、歩行者の回遊性、溜まりの空間の確保などに配慮した駅前広場の計画とする。
- 北口は、交通機能だけでなく、潤いのあるデザイン・計画とする。
- 南口は、駅前広場、2号公園、堀川沿いなどとの連携や一体性を大切にして、魅力向上に寄与するデザイン・計画とする。
- 主要な街路は、折尾のまちを印象づける重要な路線であるという認識で、歩いて楽しい街路空間を実現していく。
- 歩いて楽しい街路空間を実現していくためには、公共施設としての道路のみならず、沿道の敷地・建物のつくり方・使い方のルールも必要である。

## ③ 歴史的建造物の保全と活用に関する提言

歴史的建造物を活用したまちを目指します。

- 現在の折尾駅舎は、文化の保存を主目的とする地域の人々が活用できる「生きた施設」として保全することを優先する。
- シンボルとなる部材や歴史を伝える部材を活用し、歴史性の継承に優れた、堀川及び現駅舎に最も近接した南口駅前広場での保全を望む。
- ねじりまんぼを含む東側三連の保全・活用を図る。
- ねじりまんぼの文化と技術を継承できるような方法で、貴重な土木技術の伝承が図られる場所に保全し、活用を図る。
- その他の歴史的建造物については、地域で長い間共有化されたものは、できるだけ現状に近い形で保全に努めるが、今後、所有者等の意向を十分に確認して取り扱う。

## ④ すべての人にやさしく、安全・安心なまちづくりに関する提言

「人が主役、やさしさいっぱいのもち」

年齢・性別・国籍・障がいにかかわらず、だれでも安心して、自分の意思やペースで出かけられるまちを目指します。

- ユニバーサルデザインのまちを実現していくために、計画段階からわかりやすく情報提供を行い、より良いハードの充実を目指す。
- 駅周辺には、生活者・来訪者の暮らしの向上や交流・文化活動ができる場所を確保する。
- 駐車場・駐輪場としての利用が想定される高架下空間や、南北通路については、不安な場所にならないよう、防犯性と快適性に配慮した空間とする。

## より良い折尾のまちづくりの実現に向けて

- 折尾地区総合整備事業は長い期間を要する事業であり、工事期間中も快適に過ごすことができ、完成時に暮らしやすい街となっているためには、関係者が知恵を出し合って、まちづくりの進め方を工夫して頂きたい。
- 今後、具体化される事業については、「おりお未来21協議会」と情報を共有し合い、上記の提言をもとに進めていくことをお願いしたい。
- 駅や高架橋については、折尾のまちづくりの顔となるため、今後は、市のみならず、鉄道事業者も含めて三者の連携を図ることをお願いしたい。